

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 復興支援－39

学校名・団体名	浜松市立東部中学校
HPアドレス	http://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/tobu-j/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	東北支援復興プロジェクト（絆）
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>現在、東海・南海・東南海の三連動による巨大地震の発生が叫ばれているが、われわれは浜松市南区（本校は海岸から約4キロ・海拔4.2m）で日々生活している。つまり、いつ巨大地震にみまわれ津波に襲われても不思議ではない場所で毎日生活しているのである。そのような環境に暮らす中学生が、東北の被災者と直接交流をし、命や人とのつながりについて考えることや、いずれ起こるであろう巨大地震に対して減災の意識を高めることはとても有意義なことであると考え。「釜石の奇跡」にもあるように、いざというときは、中学生を中心とする若者達の的確な判断や実行力がまさに必要なのである。公立の中学校、それも東北地方から遠く離れている学校が、本年度は西区の海岸近くに立地し、より被害が大きいと予測される舞阪中学校を誘って、この活動を企画し、実行することの意義は大きい。</p>	

1 具体的な活動について

(1) 対象者

社会貢献部員、気仙沼減災体験ツアー希望者（生徒、教員）、保護者 総勢50名

(2) ねらい

- ・気仙沼減災体験ツアーに参加することにより、改めて家族や地域コミュニティの意義、人々の絆の大切さを学ぶ。
- ・気仙沼市本吉地区の住民や中学生と直接交流することにより、地震や津波に対する減災への意識を共に高めるとともに、災害にあった場合の新たな街づくりの視点と方向性について考える機会とする。

(3) 活動時期

8月19日（水）～8月21日（金）二泊三日

(4) 活動内容

・支援物資

一昨年は地元の方の要望により、「移動式テント」（15万円相当）を寄贈した。昨年度は飲み水の調達に苦慮している高台地域で使用する「簡易浄水器」（30万円相当）を寄贈した。本年度は、地元企業の協力を得て、特産の「浜松餃子」を仮設住宅で食べていただく機会をもった。（10万円相当）

・被災者の心のケア及び減災への意識の高揚

被災者の心のケアの一助になればと、地元の住民や中学生から被災時あるいは被災後の心の内を聞いた。また、地震にいつ襲われるかもしれない場所に住む中学生同士が、共に減災と被災後の街づくりについて語り合うことにより減災への意識の高揚を図った。

・浜松市民に対する報告会

前回の内容に加え、現地の中学生達との交流を積極的に図り、減災の方法と被災後の街づくりについて、浜松市西区南区住民を中心とした市民に、その内容を提案・報告した。

2 活動による成果

一昨年度、昨年度と東北の地を訪れた生徒たちには、日常の生活態度や物事に対する取り組みに大きな変容が見られた。自分の事を優先するのではなく、相手の気持ちに常に寄り添うことができるようになった。「相手はどう思っているのだろう」、「地域や社会に自分は何ができるのだろう」と真剣に考える生徒が増えたように思う。東北の地を訪れた生徒の発案で一昨年度に設立された「社会貢献部」は、本年度も学校や地域で様々なボランティア活動に取り組んでいる。また、本年度の報告会も生徒主体で行われ、生徒なりに考えた減災の方法や被災後の街づくりの視点は、多くの市民から高い評価を得ることができた。本年度の気仙沼減災体験ツアー参加希望者も定員を大きく上回る数となったが、これは、生徒の中にこの体験ツアーの意義が十分浸透している証であると考えられる。校内で行われた避難訓練に真剣に参加する生徒が増えたのも、命や人とのつながりを大切にする心ばかりでなく、減災に対する意識が、本校の生徒に高まってきたからであろう。3年間にわたるこの活動が、東北の被災者に勇気と活力を与え、浜松地域の減災意識が高揚することになれば幸である。今後、本校の生徒が発信源となり、学校と地域また行政が一体となって防災を担うことが大切であるということ、日本全国に発信していきたい。